

＝ 普 及 情 報 ＝

No. 16

令和7年10月1日

東部農林水産振興センター農業振興部

標 題	タマネギ栽培で2法人がタッグ！～新たな機械の共同利用の架け橋へ～
------------	---

(ダイジェスト)

松江管内では令和8年産（令和8年6月頃収穫予定）のタマネギ栽培に向けた、育苗が始まりました。農業振興部は、栽培2年目の〇法人に自家育苗の提案を行い、現在、試作の支援を行っています。〇法人は播種機を所有していないため、機械を所有している栽培6年目のベテランS法人の協力を得て播種を行いました。今後、この共同播種の体制を確立し、両法人にメリットがある仕組みを構築したいと考えています。

松江管内では2法人がタマネギ栽培に取り組んでおり、令和8年産の播種作業を9月17日に行いました。

〇法人は令和6年秋から栽培を開始し（20a）、1年目は購入苗のみで作付けしましたが、園芸部リーダーが花き生産者で育苗できる環境が整っていたこと、面積拡大に向けて収益性の向上が課題であることから、農業振興部が自家育苗を提案し、県のソフト事業を活用しながら一部試験的に実践することにしました。

自家育苗を行うに当たって、〇法人は播種機を所有していないため、機械を所有しているS法人に共同播種ができないか農業振興部が間に入って調整し、2法人共同の播種作業が実現しました。

〇法人へは、事前に動画等を活用して育苗の流れを説明しイメージをつかんでもらったことにより、当日8名が参加され、播種作業をスムーズに実施することができました。

播種したトレイは〇法人が持ち帰り、農業振興部の指導に沿い園芸リーダーが中心となって県の推奨する管理をしています。

当初、運送中に種が浮いて発芽率が悪くなることを懸念していましたが、ほとんど欠株することなく発芽し、順調に生育しています。

今回、共同播種の試行を通じ、作業の効率化、機械導入のコスト削減だけでなく、2法人の連携を深めることができ、とても良い取り組みになったと手ごたえを感じました。今後、面積拡大に向けて本格的な仕組みづくりに発展できるよう、関係機関と協力しながら取り組んでいきたいと考えています。

播種作業の様子



出芽の様子

